

5 . 外部評価

External Evaluation

【1】 外部評価

1. 外部評価委員会の開催

平成28年11月28日(月)、「弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会」を弘前大学創立50周年記念会館にて開催した。

本委員会は、学識経験者、行政機関関係者、企業等関係者らによって構成され、弘前大学が平成26年度に採択された「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」及び平成27年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の取組に関して、第三者による客観的評価を行うために設置された。

委員会には、外部評価委員である山形大学理事・副学長の安田弘法氏、函館市企画部次長兼国際水産・海洋都市推進室長の本吉勲氏、一般財団法人青森地域社会研究所常務理事の竹内紀人氏、青森県高等学校長協会会長の成田昌造氏、青森コミュニティビジネス株式会社(青森県男女共同参画センター館長)の小山内世喜子氏が出席した。

佐藤機構長による挨拶の後、委員長に安田氏が選出された。続いて平成27年度の弘前大学COC事業及び青森COC+事業の取組や実績について、各担当者から説明を行い、その後、各委員から、事業に関する評価や改善の提案など、忌憚のない意見があった。





2. 外部評価報告

弘前大学COC事業及び青森COC+事業 外部評価結果報告書

弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会

日 時 平成28年11月28日（月）13時30分～16時15分
 場 所 弘前大学創立50周年記念会館 2階 岩木ホール
 対象年度 平成27年度

《外部評価委員》

委員長 安田 弘法【国立大学法人山形大学理事・副学長】
 委 員 本吉 勲【函館市企画部次長，国際水産・海洋都市推進室長】
 委 員 竹内 紀人【一般財団法人青森地域社会研究所 常務理事】
 委 員 成田 昌造【青森県高等学校長協会 会長】
 委 員 小山内 世喜子【青森コミュニティビジネス株式会社（青森県男女共同参画センター館長）】

青森COC+事業外部評価結果

評価項目	委員 1	委員 2	委員 3	委員 4	委員 5
実施体制	3	3	3	4	3
教育改革	3	3	3	4	3
学生の地元就職・起業支援 （ブロック事業）	3	3	3	3	4
雇用創出	4	3	4	3	4
全体評価	3	3	3	4	3

《評語》

4：計画を上回って実施している／3：計画を十分に実施している
 2：計画を十分には実施していない／1：計画を実施していない

外部評価委員長からの総評

【青森COC+事業に関して】

青森COC+事業は、青森県の最大の課題である「人口減少克服」のため、弘前大学をCOC+大学とし、青森県にある8大学1高専、青森県、県内主要4市、県内企業等（約100社）の協働による「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人財」の育成と学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に一丸となって取り組み、学生の地域就職率の向上、雇用創出を実現するものであり、この取り組みには多くの期待が寄せられている。

初年度となる平成27年度は、弘前大学長を機構長とする青森COC+推進機構を設置し、オール青森の体制で事業協働地域を活性化する体制を構築している。また、COC+推進コーディネーターと県内4つのブロックにコーディネーターを配置し、各ブロック事業の進捗管理と事業協働機関相互の連絡調整を行う体制を整えている。

教育改革については、教育プログラム開発委員会の規定等の整備、各WG委員会における参照基準の検討等が実施されている。学生の地元就職・起業支援については、学生の地元企業へのインターンシップや就職・起業支援についてブロック毎に共同企画・実施する等、学生の地元企業に対する意識や認知度が高められている。また、雇用創出については、各大学における新産業・ビジネスを創出する仕組みの検討が進められたほか、先行するプロジェクトにおける新産業創出につながる製品の試作等が行われている。これらのことから、本事業は計画を十分に実施していると評価できる。

本事業は準備段階であり、いずれもチャレンジングな取り組みであるが、最終目標である地域創生、地方創生に向かって『オール青森』で、ますます加速していただきたい。

外部評価各委員からの意見等

《青森COC+事業に関して》

- 計画を十分に実施している状況であると思う。今、ある意味では準備段階を走っている最中なので、ますます加速していただければと思う。最後の目標は、地域創生、地方創生である。県の人口ビジョンで言うと、2080年頃に約80万人で安定する。ということは、その後、反転するということだが、130万人が80万人に向っていく道筋で、どういう街がどこに形成されて、どういう役割分担をするのか、それを創る人財をオール青森体制で育成する、これがCOC+だと認識している。仕事を作らなければ人は育成できないけれども、育成する仕事を作ることもまた仕事の一環であり、それによってようやく街づくりができる。同時進行でしか出来ない。そういう意味では、リーダーだけが頑張っても全員で向わなければできない業である。普及、宣伝という話もあるが、推進本部、各ブロックの動きについては、もちろん加速していただき、また同時に、ますます広くCOC+の考え方を広げていただき、民間の我々も一緒にやらせていただきたいと思うので、よろしく願いしたい。
- 現時点では十分実施出来ていると思う。元々の目的が、地域人財を創っていくということなので、まず、大学に地域の人が入学してくれないと困る。大学の魅力について、子供達も知らない部分があると思うので、地元の子供達が地域の大学を目指すような取り組みをしていただきたい。その中で、大学OBの活用も今後出てくるのではないかと思う。また、雇用の部分については、地元企業には大学OBが入社していると思う、そういう人材の活用も出てくると思う。今回、新規の学卒者が指標になっているが、Uターン等のフォロー、人材の活用もターゲットに入れて動けば、実質的な雇用増が出てくると思う。
- COC+には3つの大きな柱があり、1つは教育改革、1つは学生の地元就職・起業支援、最後が雇用創出である。それぞれきっちりした柱、骨格を基に、これから立ち上がり進みつつあると感じている。いずれもチャレンジングな取り組みなので、今後とても期待できる部分であると思う。